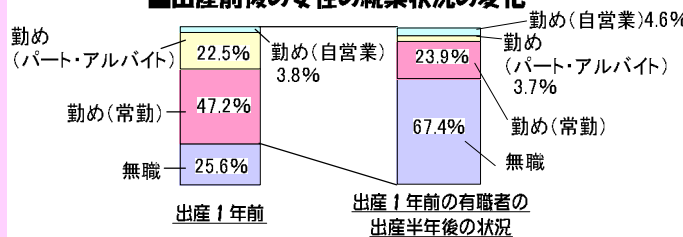


今月のHOTニュース

少子化問題について考えよう

現在の急速な少子化の進行の背景のひとつに、「働き方をめぐる様々な問題」が存在しています。内閣府が発行している平成21年「少子化社会白書」より、出産・育児と仕事に関する実態や政府に対する要望などをまとめてみました。出産・育児の観点から、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について考えてみませんか。

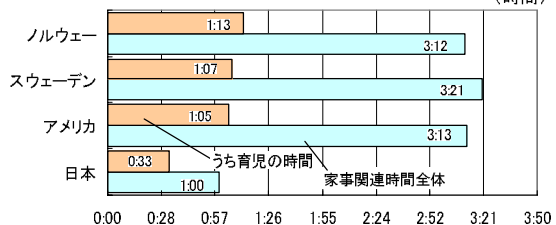
■出産前後の女性の就業状況の変化



資料:厚生労働省「第1回21世紀出生児縦断調査」(平成13年度)
注:きょうだい数1人(本人のみ)の場合

出産前の有職者(全体の73.5%)のうち、67.4%は出産半年後無職となっていることから、出産前に仕事をしてきた女性の約7割が出産を機に退職していることがわかる。

■6歳未満児を持つ男性の育児・家事関連時間(週全体)



資料: Eurostat "How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men" (2004).
Bureau of Labor Statistics of the U.S. "America Time-Use Survey Summary" (2006).
日本: 総務省「社会生活基本調査」(平成18年)

男性の育児・家事の時間は欧米諸国と比較しても突出して低い水準にとどまっている。

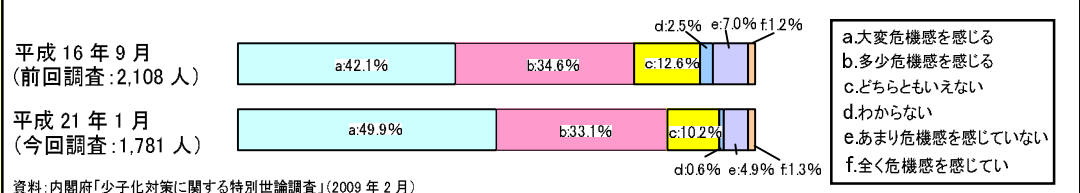
■育児休業取得率(事業所規模別)

	平成17年度	平成19年度				
		全体	500人以上	100~499人	30~99人	5~29人
女性	72.3%	89.7%	94.0%	93.3%	87.6%	65.3%
男性	0.50%	1.56%	0.66%	0.57%	2.43%	8.85%

資料:厚生労働省「平成19年度雇用均等基本調査」結果概要
<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2008/08/h0808-1.html>

育児休業を取得したいと希望する男性は3割を超えているにもかかわらず、男性の育児休業取得率は1.56%(2007年(平成19年))にとどまっている。このような状況を踏まえて、政府は「パパの育児休業体験記」を募集し、育児休業取得から復帰までの実践のロールモデル普及に役立てている。

■出生率についてのわが国の将来への危機感



低い出生率が続いていることによるわが国の将来への危機感については、「危機感を感じている(大変危機感を感じている+多少危機感を感じている)」が83.0%(前回調査では76.7%)「危機感を感じていない(あまり危機感を感じていない+まったく危機感を感じていない)」が6.2%(前回調査では8.2%)となった。

■少子化対策で特に期待する政策(上位3位)

順位	期待する政策	回答率
1	仕事と家庭の両立支援と働き方の見直しの促進	58.5%
2	子育てにおける経済的負担の軽減	54.6%
3	妊娠・出産の支援	54.6%

資料:内閣府「少子化対策に関する特別世論調査」(2009年2月)
少子化対策で特に期待する政策については、「仕事と家庭の両立支援と働き方の見直しの促進」が58.5%(前回調査では51.1%)、「子育てにおける経済的負担の軽減」が54.6%(前回調査では50.5%)、「妊娠・出産の支援」が54.6%(前回調査では27.0%)、となった(複数回答)。

■少子化社会対策大綱の取組に関する要望(上位5位)

順位	要望	回答率
1	小児医療体制を充実する取組	42.1%
2	妊娠・出産の支援体制、周産期医療体制を充実する取組	36.0%
3	児童手当の充実を図り、税制のあり方の検討を深める取組	32.1%
4	労働時間短縮等、仕事と生活の調和のとれた働き方の実現に向けた環境整備の取組	27.1%
5	妊娠・出産しても安心して働き続けられる職場環境の整備を進める取組	26.8%

2004年6月、少子化に対処するための施策の方針として「少子化社会対策大綱」が策定され、内閣をあげて少子化対策に取り組んでいる。4位の「労働時間短縮～」5位の「妊娠・出産～」から、仕事と生活の調和に関する要望が多いことがわかる。

出典:内閣府HP/<http://www.cao.go.jp/>

交通安全のポイント

通信宝箱

雨天時は、視界が悪い、路面が滑りやすいなど車にとって悪条件が重なるときですが、歩行者や自転車にとっても同様であり、それが思わぬ危険な行動につながる場合があります。そこで今回は、6月の梅雨のシーズンを迎えるにあたって、雨天走行時における歩行者や自転車に対する注意点をまとめてみました。

■歩行者に対する注意

雨の降り始めは危険な行動をとることがある

雨が降りだしても車の中にいるドライバーは濡れる心配はありませんが、歩行者はそうではありません。特に傘を持っていない歩行者は濡れるのを避けるため、早く目的地へ行こうとしたり、適当な場所で雨宿りしようと先を急ぎます。その結果、車に対する注意が欠けて、十分な安全確認をせずに道路を横断したり、赤信号で交差点を渡ってくる場合があります。雨の降り始めは、歩行者の動きによく目を配りましょう。

周囲に対する注意が欠けやすい

雨天時は車だけでなく、傘をさしている歩行者の視界も悪くなります。また、水たまりなど路面を気にして歩くこともあって、周囲に対する注意力が欠け、車の接近に気づくのが遅れることがありますから、歩行者に接近するときは十分速度を落としましょう。

歩道から車道に出てくることがある

狭い歩道では、傘をさしている歩行者同士のすれ違いが窮屈になり、互いの傘が接触したり、傘のしずくが相手にかかってしまうことがあります。ときにはそれがトラブルの原因になるケースもあるため、歩道でのすれ違いを避けようとして、歩行者が歩道から車道に出てくることがありますから、歩道の歩行者の動きにも注意しましょう。

道路脇の歩行者を見落とすことがある

ワイパーはフロントガラスに付着した水滴をすべて除去できるわけではありません。特にワイパーの届かないフロントガラスの端は水滴が残って見えにくくなります。そのため道路脇に立っている歩行者に気づくのが遅れ、歩行者の横断を見落とすことがありますから注意しましょう。



■自転車に対する注意

傘さし運転の自転車は不安定

片方の手で傘をさして自転車を運転する、いわゆる「傘さし運転」は違反行為ですが、現実には傘さし運転をする自転車は少なくありません。そのような自転車は非常に不安定であり、風雨が強いときには、風に傘をとられてバランスを崩し転倒するケースもあります。傘さし運転の自転車に接近するときは速度を落とすとともに、追い抜くときには十分な側方間隔をとるようにしましょう。

傘さし運転の自転車は止まらない

傘さし運転の自転車は不安定なだけではありません。片方の手のみでブレーキ操作をしなければならぬため、両方の手でブレーキをかけるときのような強い制動力が得られず、急停止することが難しくなります。しかも、路面が濡れているため、ブレーキをかけたときの停止距離も長くなりますから、交差点などで傘さし運転の自転車が接近しているときは、自転車のほうが止まるだろうとは考えずに、自車が交差点の手前で停止できるような速度に減速して進行するようにしましょう。

白線の上はスリッパしやすい

雨天時は車だけでなく、自転車もスリッパしやすくなります。自転車の場合、横断歩道などの白線の上がスリッパしやすいので、前方を走行する自転車が横断歩道にさしかかったときなどは、自転車の動きに十分注意しましょう。また、道路工事等により路面に鉄板が敷かれているところは、車も自転車もスリッパしやすいので、速度を落として慎重に運転しましょう。

雨天時にバックするときの留意点

雨に濡れたくないという心理は、ドライバーも同じです。そのため、いつもはバックするときに窓を開けて後方確認をしていますが、雨天時は窓を開けずにリアウインドー越しの確認で済ましてしまうことがよくあります。しかし、リアウインドー越しの確認は死角が大きいうえに、雨滴が付着している場合は後方の状況が見えにくくなりますから、そうした状態でバックするのは大変危険です。雨天でも、窓を開けて後方の確認をしっかりと行ってからバックするようにしましょう。

【取扱代理店】 保険情報サービス株式会社

【住所】 〒120-0005 東京都足立区綾瀬3-16-4とうしんビル3F

TEL: 03-5682-7070

FAX: 03-5682-7071